

—第68編— 環境モデル都市、クリティイーバ^{*1}

サンパウロから空路約45分で標高940mのクリティイーバに着く。都市化が進んだのはこの50年あまりのことだが、今や市域で170万人を超える大都市となった。先駆的「環境モデル都市」として名を馳せるが、このような都市経営がなぜ南ブラジルのこの地で成功したのか、世界各地から大きな関心が寄せられる。

私の知己でパリの事務所の先輩でもある元市長ジャイメ・レルネル^{*2}（写真68-2）がそのキーパーソンだ。国際建築家連合（UIA）の会長も務めた建築家でもある。若くして市長に指名されて以来、「イプキ^{*3}」という都市計画の立案・実行部隊をフル回転させて、理念を極めて現実的に、スピーディにそしてローコストに実現した。その手腕は、彼のおおらかな人柄とともに、



写真68-1 クリティイーバ鳥瞰（提供：ジャイメ・レルネル氏）

*1
Curitiba: ブラジル、
パラナ州の州都。市域
で人口約176万

*2
Jaime Lerner
(1914-)

*3
IPUCC (Instituto
de Pesquisa e
Planejamento
Urbano de Curitiba :
クリティイーバ都市計画
研究所)



写真68-2 ジャイメ・レルネル

あつという間に人々に支持されるようになる。その理念は、① Mobility（移動しやすいまち）、② Sustainability（持続可能なまち）、③ Identity（独自性のあるまち）の三つに集約された。

① 明快な都市構造とメリハリのある土地利用を権利変換の手法を駆使して実現し、有名なバスシステムと公共施設配置でまさにコンパクトで移動しやすいまちが可能となった。② ①と補完する形で徹底的な緑化を推進し、写真68-1でわかるように幹線の高密度地区に対し周辺の低層居住地域には公園・緑地をちりばめた。こうして、全市域の18%を緑地が占め、人口一人当たり49㎡という驚異的な結果を達成した（ちなみに東京都は4㎡/人以下）。そして、多彩な環境政策には日本生まれのヒトシ・ナカムラがあたり、彼は草の根の「環境市民大学」の運営にもあたってきた。③ もともと欧州や日本などからの移民が多く、多民族コミュニティの存在が①と②を可能にしたと言われている。レルネルもユダヤ系ポーランド人の直系である。こうして、クリティイーバならではの文化と生活が多様性を許容する、移民の国ブラジルにあっても独特な都市を生むことに成功したと言えるだろう。

彼にまちを案内していただいた先々で、元市長への心温まる市民からの挨拶や感謝や激励の様子に触れた。ここまで来るのに想像を絶する事業であったことに疑いをいれないが、私は一人のリーダーの資質がこれほどまでに発揮された例を他にあまり知らない。